

第 203 回 新宿区目白大学の佐藤夫妻像

筆者：林 久治（記載：2022 年 10 月 6 日）

（1）前書き

私（筆者の林）は [Random Walks（乱歩）](#) という題名で [偏屈老人（林久治）の気促な紀行文](#) のサイトを始めている。私の紀行文では、通常の紀行文にはない、斜め目線からのご紹介を書くことに拘りたいと思います。通常の紀行文に関しては、既に優れたサイトが沢山ありますので、それらをも引用しつつ、ユニークなご紹介を記載することに心掛ける所存です。

一方、私は日本の銅像探偵団 ([1\) のサイト/](#)) の銅像探索に参加している。私は珍しい銅像を探して、探偵団の団長さんに「ギャフン！」と仰っていただけることを目標としている。ここで「珍しい」とは、「①見つけ難い場所に隠れている有名人の銅像。②市井で頑張って人生を過ごしたが、有名人ではない人物の銅像」と言う意味である。私は自宅が東京にあり、孫達が大阪にいたので、主として東京近郊と近畿地方で銅像探索を行っている。最近、私はネット記事を丹念に調査し、そのような「スクープ銅像」の候補を多数見つけている。

武漢肺炎による自粛生活で家に籠っていると、運動不足で体重が増加するし、精神的にも圧迫を感じる。私の銅像探索は不要不急の活動ではなく、私の生存に必要な不可欠である。昨年の末には感染者数が激減し、「これで流行は終息か？」と期待していた。所が、本年になって第 6 波が到来してしまった。2 月 3 日には、日本全国の新規感染者数は、過去最高の 104,334 名に達した。しかし、これをピークとして新規感染者数は徐々に減少して、6 月 23 日には 16,670 名にまで減少した。

この頃、私は第 4 回目の予防接種を予約し、7 月 8 日に受けることが出来た。そこで、私は 7 月 16 日からの連休後に大阪に行って、孫達と遊ぶことを計画した。しかし、6 月末から第 7 波が到来して、新規感染者数が急激に増加し始めた。娘から「今月は、大阪に来るのを見合わせたら」と言われたので、残念ながら私は大阪行きを中止した次第である。その間、新規感染者数は急激に増加し、8 月 3 日には過去最高の 249,789 名にまで達した。これは、当日の世界最高値であった。

東京地方の猛暑は例年以上で、7 月初旬から最高気温は連日 35℃以上であった。従って、第 7 波と猛暑のため、私は銅像探索をしばらく自粛していた。しかし、8 月 4 日から 6 日までは大変涼しくなったので、6 日には人出の少ない新国立競技場周辺で秩父宮像などを探索した。次に涼しくなった 8 月 28 日には、宝生能楽堂の銅像を探索した。

9 月初旬、私共は大阪に滞在し、有馬温泉の行基像、秀吉像、及びねね像を探索し、大阪府三島地域の銅像を探索した。東京に帰ってからは、9 月 25 日に谷中霊園の小川源兵衛像と鈴木喜三郎像を探索し、[前回の記事/f](#) に探索記を書いた。なお、私の銅像探索記の全ては、[2\) のサイト/f](#) から閲覧出来ます。

暫く前に、私は [3\) のサイト/3](#) で、目白大学新宿キャンパスに創立者の佐藤先生夫妻の銅像があることを発見した。本像は [1\) のサイト/](#) に収録されていないので、探索したいと思っていた。しかし、ここ数年は武漢肺炎により大学祭が殆ど開催されず、大学に入構することが以前より困難になっている。幸い、本学には縄文時代から奈良時代までの遺跡があり、一般公開を行っているとの記事があった ([4\) の](#)

サイト/)。私は「遺跡を見学する途中で佐藤像を撮影できそう」と思ったが、肝心の遺跡公開が暫く中止になっていた。

最近、[5\)のサイト/f](#)より、私は「遺跡公開が9月20日より再開された(土日祝祭日は閉室)」とのニュースを知ったので、10月4日に探索を行った次第である。本稿は、その探索記である。本稿では、私の意見などを青文字で、資料の内容などを緑文字で記載する。

(2) 目白大学新宿キャンパス



図1. 目白大学新宿キャンパスのアクセス地図、本図は、[6\)のサイト/](#)より借用。

図1に目白大学新宿キャンパス(東京都新宿区中落合4-31-1)のアクセス地図を示す。[4\)のサイト/](#)には、「落合遺跡(目白学園遺跡)」に関して、以下のような説明が書かれている。

目白大学・目白大学短期大学部(東京都新宿区)では、学園構内において、戦後間もなく縄文・弥生時代～奈良時代の複合集落遺跡が発見され、それらは「落合遺跡(目白学園遺跡)」と命名されている。発掘された土器や石器などは学園内の「目白学園遺跡 出土品資料室」(正門前の佐藤重遠記念館内)に展示され、住居跡の写真パネルや年表でわかりやすく紹介されている。

同大では、2016年3月に新宿区と包括連携協定を締結し、さまざまな取り組みを実施しており、その一つが新宿ミニ博物館となっているこの「目白学園遺跡 出土品資料室」の無料開放である。林芙美子記念館や旧目白文化村を訪れた歴史好きなまち歩きの一般市民や隣接する福祉施設の方、幼稚園の園児らもしばしば来校し、キャンパス内の緑を楽しんでもらいながら、資料室も自由に観覧できるようになっている。

[7\) のサイト/](#)とウィキペディアによれば、目白大学の沿革は次の通りである。

目白学園 略年表

1923年：佐藤重遠・フユにより東京都新宿区の現在地に研心学園（男子校）を創設。初代理事長に佐藤重遠就任。

1929年：財団法人目白学園設立。

1930年：目白商業学校を設置。

1934年：佐藤フユ、第2代理事長に就任。

1944年：目白商業学校を目白女子商業学校（女子高）に転換。

1948年：学制改革により、目白女子商業学校は目白学園高等学校と目白学園中学校に改組（2009年より、共学）。

1955年：目白学園遺跡（落合遺跡）第一次発掘調査完了。

1956年：佐藤重遠、第3代理事長に就任（1964年まで）。

1963年：目白学園女子短期大学を創設し、英語英文科を設置。

1983年：創立60周年記念式典を挙行、佐藤重遠記念館竣工。

1994年：埼玉県岩槻市に「岩槻キャンパス」を開設し、目白大学を創設。

2000年：目白学園女子短期大学は目白大学短期大学部に改組される。

2009年：埼玉県和光市に「国立埼玉病院キャンパス」を開設。

なお、目白大学新宿キャンパスの紹介は、[8\) のサイト](#)が優れている。また、本学の歴史は、[9\) のサイト/7](#)が優れている。

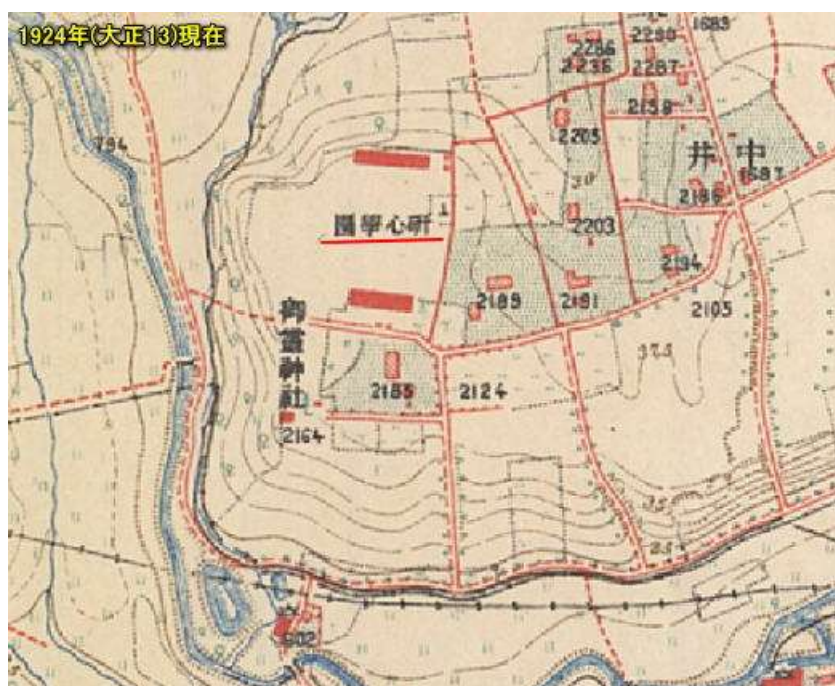


図2. 開校当時の研心学園周辺地図、本図は、[9\) のサイト/7](#)より借用。

図2に、開校当時（1924年）の研心学園周辺地図を示す。本図より、「当時は、本学園の周辺は武蔵野の田園の一角であり、川（妙正寺川）が近くを流れる台地上に校舎があった」ことがよく分かる。当地に大きな遺跡があるのは、このような場所が古代人にとって住みやすい土地であったのであろう。

（3）佐藤夫妻の銅像

目白大学新宿キャンパスの構内図を図3に示す。私は、10月4日の午前10時過ぎに、都営地下鉄落合南長崎駅から本学を目指した。駅前に適切な表示がなく、私は迷いながら、やっと本学の方角に進むことが出来た。本学の正門に着くと、反対方向から大勢の学生達が本学に歩いてきていた。本学には、西武新宿線の中井駅から行くのが正道らしく、このルートを進めば迷いなく本学に到着できたようだ。



図3. 目白大学新宿キャンパスの構内図、本図は、[10\) のサイト/](#)より借用。

次ページの図4には、正門前（図3の①）の写真を示す。目指す佐藤重遠記念館（図3の②）は、正門の向こうにある建物である。正門には多数の学生達が登校していたが、私は「正門の前にいる守衛さんに許可を得るのが得策だ」と思ったので、彼に「遺跡の見学に来ました」と申し出た。彼は、遺跡見学者専用のノートを取り出して、「ここに住所と名前を書いて下さい」と言った。ノートを見ると、見学者は数日に一人位で、非常に少なかった。このようにして、守衛さんの許可が得られたので、私は堂々と入構することが出来た。

（本文は、6ページに続く。）



図4. 目白大学の正門前



図5. 上：佐藤重遠記念館の玄関、下：佐藤重遠記念館横の佐藤夫妻像。

佐藤重遠記念館（図3の②）の玄関には、「目白学園遺跡」の案内板があった。その写真を図5上に示す。出土品資料室に入ってみると、大変狭い部屋で、出土品の展示も少なく、期待を裏切られた内容であった。記念館を早々に退出して、「銅像は記念館の近くにあるはずだ」と探索すると、記念館の裏側（図3の③）に2基

の胸像を発見した。その写真を図5下に示す。図6上左には佐藤重遠先生之像、図6上右には台座の題字、及び図6下には本像背面の署名を示す。本署名より、本像の制作者は「盛岡勇夫」であることが分かった。しかし、本像の周辺には、制作日や建立日を示す資料は見当たらなかった。



図6. 上左：佐藤重遠先生之像、上右：台座の題字、下：本像背面の署名。



図7. 左：佐藤フユ先生之像、右：台座の題字。

図7左に佐藤フユ先生之像を、図7右に台座の題字を示す。本像も「盛岡勇夫」作であったが、制作日や建立日を示す資料は無かった。

[7\) のサイト/](#)とウィキペディアには、本園創立者の佐藤重遠（1887－1964）先生の略歴が記載されている。それらを、重遠像の概要に記載する。それに反して、フユ先生の経歴に関する記事は少ない。[11\) のサイト/3](#)に、次のような記載がある。

佐藤重遠の妻：フユは明三一、一二生、衆議院議員床次竹二郎二女、御茶水高等女學校出身

なお、「御茶水高等女學校」は「東京女子高等師範学校」のことであろう。フユ先生の本園教育への貢献は、[9\) のサイト/7](#)に詳しく書かれている。それらを、フユ像の概要に記載する。

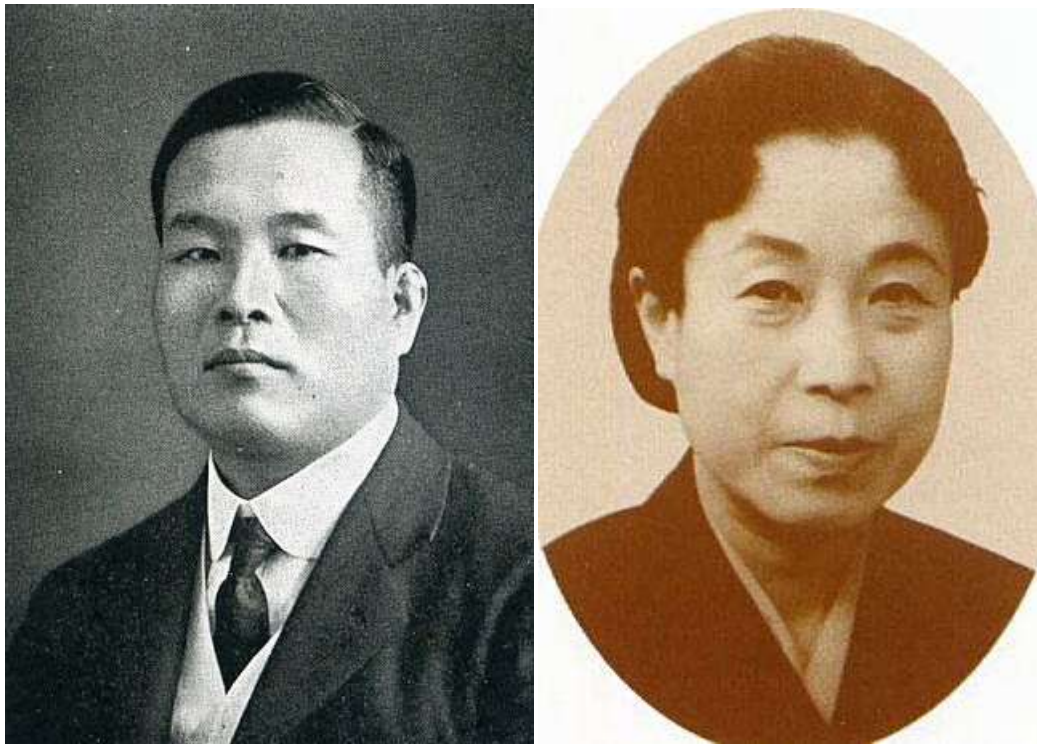


図8. 左：佐藤重遠先生の写真、本図はウィキペディアより借用。右：佐藤フユ先生の写真、本図は、[9\) のサイト/7](#)より借用。

図8左に佐藤重遠先生の写真を、図8右に佐藤フユ先生の写真を示す。以上の資料などにより、佐藤夫妻像の概要は次の通りである。

佐藤重遠・フユ夫妻像

設置場所：東京都新宿区中落合 4-31-1 佐藤重遠記念館横の庭園

制作者：立体写真像発明者 盛岡勇夫

建立時期：不明

設置経緯：1923年、佐藤夫妻は東京都新宿区の現在地に研心学園（目白学園前身の男子校）を創設。目白学園の略年表は、先に記載した通りである。

佐藤重遠（じゅうえん、1887年12月17日 - 1964年1月5日）は、日本の政治家、教育者、事業家。衆議院議員（4期）。重遠の略歴は次の通りである。

宮崎県延岡市出身。幼名は傳次郎。貧窮の中両親を助け、その優秀な成績に「南方村に傳次郎あり」と言われた。素封家の知遇を得て、延岡中学校から第一高等学校を卒業。1914年、東京帝国大学法科大学を卒業し、三菱合資会社入社（1921年まで）。1922年、市来乙彦大蔵大臣の秘書官となる。1923年4月、私財を投じて夫人フユとともに落合の高台に研心学園（目白学園の前身）を創設。生涯を学園の発展に捧ぐ。学校経営に情熱を傾けるかたわら、中央生命保険株式会社の経営陣に加わり、1924年より合計4期にわたり衆議院議員として国政に携わり、大蔵常任委員長など歴任す。1963年11月、長年の教育功勞によって藍綬褒章を受賞。教育功勞ならびに国政への功績により正五位に叙され、勲三等瑞宝章を授与される。

佐藤フユ（1898-1958）は衆議院議員床次竹二郎（通信大臣、鉄道大臣、内務大臣などを歴任）の二女、東京女子高等師範学校出身。フユが目白学園の経営に参加した経緯は次の通りである。

堤康次郎と佐藤重遠は1924年、衆議院選挙へ同時に立候補して当選し政界へ進出した。だが、佐藤重遠は中央生命保険での背任行為が発覚し、1934年に懲役2年の判決を受け議員を辞職をした。さらに、1937年には衆議院選挙での選挙違反を問われて禁錮4ヶ月の判決を受け、以降は政界へ復帰することはなかった。学校の創設者であり理事長が、上記のようなありさまだったので、実務をまかされていた教育現場のスタッフたちはたいへんな思いをいただろう。「先生、警察に二度も捕まらないでください！ 生徒や親たちに示しがつかない」と、誰もが思っていたにちがいない。佐藤重遠は最初の逮捕のとき（1934年）理事長を辞職して、かわりに妻の佐藤フユが同職に就任した。目白学園が、ことさら女子教育に熱心で評判になったのは、女高師（現・お茶の水女子大学）出身だった佐藤フユ理事長の功績が大きいからだろう。死去する2年前の1956年まで学園教育の第一線に立ちつづけ、夫の佐藤重遠よりも先に他界している。

（4）本稿の後書

夫君の佐藤重遠先生は学校経営の他、保険会社の経営に参加したり、国会議員になったりしました。ところが、会社では背任行為が発覚し、1934年に懲役2年の判決を受け議員を辞職しました。さらに、1937年には衆議院選挙での選挙違反を問われて禁錮4ヶ月の判決を受け、以降は政界へ復帰することはありませんでした。夫君は1934年に学園理事長を辞職し、夫人の佐藤フユ先生が2代目の理事長になりました。夫人は床次竹二郎という大臣経験者の次女で、女高師の卒業です。目白学園が女子教育で有名になったのは、夫人の手腕によったとの評判です。それにしても、2回も有罪判決を受けた夫君は、1963年11月、長年の教育功労によって藍綬褒章を受賞。教育功労ならびに国政への功績により正五位に叙され、勲三等瑞宝章を授与され、大学では銅像になっているのが不思議です。この辺の事情を御存知の方がおられましたら、是非ご教示をお願いします。

参考資料

- 1) のサイト：<https://douzou.guidebook.jp/>
- 2) のサイト：<http://masaniwa.web.fc2.com/Ranpo.pdf>
- 3) のサイト：
<https://amanaimages.com/info/infoRF.aspx?SearchKey=10430008753>
- 4) のサイト：<https://japan.cnet.com/release/30177294/>
- 5) のサイト：
https://www.mejiro.ac.jp/gakuen/images/iseki/iseki_cal_20220919.pdf
- 6) のサイト：<https://www.mejiro.ac.jp/univ/jyukensei/access/shinjuku/>
- 7) のサイト：<https://www.mejiro.ac.jp/univ/about/history/>
- 8) のサイト：[目白大学在学生の新宿キャンパス紹介 - 目白大学同窓会 Weblog \(mejiro-dousou.org\)](http://mejiro-dousou.org)
- 9) のサイト：<https://chinchiko.blog.ss-blog.jp/2021-06-17>
- 10) のサイト：
https://www.mejiro.ac.jp/univ/campuslife/shinjuku/life/campus_map/
- 11) のサイト：<https://jahis.law.nagoya-u.ac.jp/who/docs/who8-9603>